

評価委員会総合評価

研究課題名：火山性流体採取法における技術的検討

評価委員

委員長：隈健一

委員：齊藤和雄、大野木和敏、安田珠幾、小泉耕、尾瀬智昭、青梨和正、高薮出、鈴木修、橋本徹夫、山里平、堤之智、岡部来

評価年月日：平成30年2月21日

1. 委員評価総合評価（判定の理由は、委員所見の欄に記載）

- 非常に優れた研究であった
- 優れた研究であった
- 研究を実施した意義はあった
- 失敗であった

2. 総合所見

本研究は、火山ガスの採取をどこで行なうべきかという、基礎的な基準に関する研究であり、今後の火山ガス研究の発展に重要と考えられる。期間が短く、成果発表がないのは残念だが、科研費基盤研究の申請につなげた。

目標設定の妥当性については自己点検のとおり、やや高度に設定しすぎた感がある。他の研究との連携が有効に行われ、効率的に実施されていた。

本研究は当初想定どおりの成果は得られた。また、研究目標の設定は概ね妥当、研究の効率性は効率的であったと判断できる。

加えて以下のような指摘事項もあり、後年度の他研究等に活かすことを期待する。

- ・今回の経験と成果をもとに、観測の安全性やコストなどを工夫し、水蒸気爆発の可能性予測を目的として、長期的な火山ガス監視が多数の火山でできるようなシステムを考えてほしい。観測の安全性が損なわれると、火山ガス観測そのものができなくなる可能性もあるので、慎重に研究を進めてほしい。
- ・研究結果は是非技術報告等ドキュメントにまとめていただきたい。
- ・採取を実施した山及び地点のデータについて地点の依存性は少なかったとはいう結果に対して、その根拠（推定でも良い）などが示されていない、今後の取組や将来の成果に盛り込まれることで、初期の目的が達成されることに期待したい。
- ・ドローン等を活用しながら、しかも直接噴気孔から採取できるような安全な新しい観測手法を検討することも大切なので、今後は、その方面も研究してもらいたい。
- ・事例数がまだ少ない。今後も継続して同様の研究を実施し、結果をより強固なものにしてもらえればと考える。